

# Kci

vol. 7

## 開発コンクリートインフォメーション

防護柵用基礎ブロック G ベースを紹介いたします。

『NETIS』登録技術 HR-050011-A



「Gベース」は、品質・工期・安全性・施工性・経済性・メンテナンスなどあらゆる面で現場打ち工法に比べて多くの長所を持った画期的なたわみ性防護柵用基礎ブロックです。「Gベース」は、車両の衝突荷重を考慮し、金沢大学の指導の下、安定・構造試験を行い、その安全性が確認され、たわみ性防護柵C種～SC種に対応しています。

## 特徴

### 1 下部構造物の直上に設置ができます。

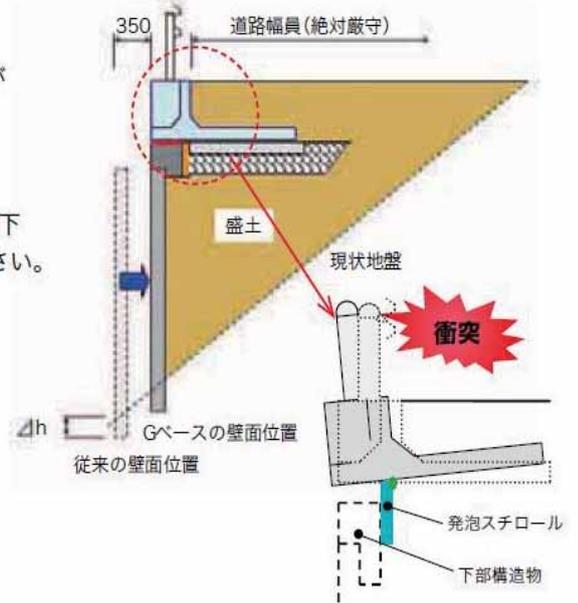
Gベースは、下部構造の上部に緩衝材を敷設しその上に直接設置が可能のため、従来工法に比べ、余幅の用地を必要としません。

- ① 必要用地が小さくなり用地費用が削減できる。
- ② 壁面積、盛土量が削減可能。

また衝突事故が発生した場合であっても中空に設置されたGベースは下部構造物に衝突荷重を与えません。『P5.実験報告』を参照ください。

### 2 豊富なバリエーション

- ① 側溝を抱きかかえた計画に対応が可能。
  - ② 現場打ちと同一高さの規格を保有。
  - ③ 遮音壁、標識など特殊部の対応が可能。
- 『P6.施工例』をご参照ください。

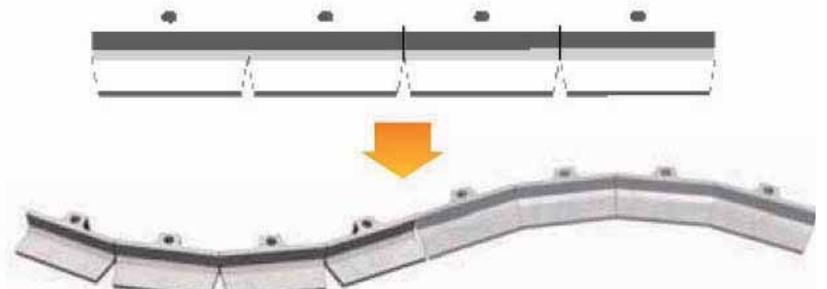


	必要内高※	H400	H500	H600
自由勾配側溝	495mm以上	-	○	○
道路用側溝	560mm以上	-	-	○
円形側溝	380mm以上	○	○	○

※必要内高は各側溝の最低規格高に基礎(50mmと仮定)を考慮したものである。

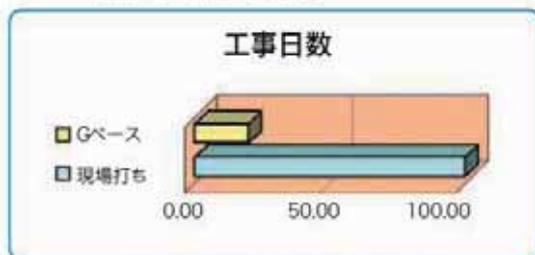
### 3 ドライ施工で工期短縮

- ① ボルト連結でラクラク施工。
- ② 標準製品を使用した曲線施工対応。  
(R15mまで対応可能です)

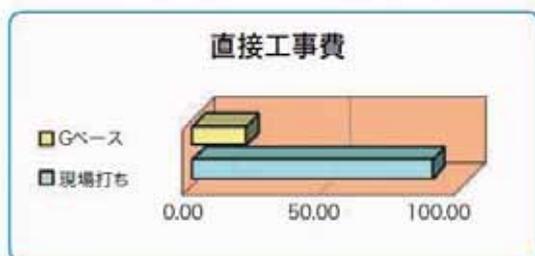


#### 4 維持管理も容易

万が一の事故による損傷も早期復旧



●復旧に要する工期は20%



●現場打ち工法の復旧費の25%

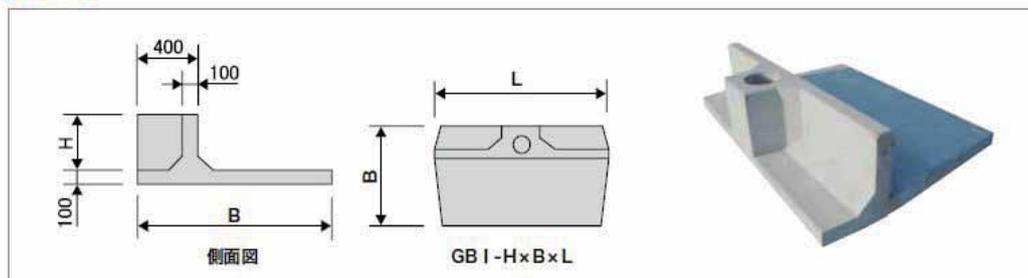


#### 事故対応事例

事故後の防護柵及びGベースの取り替え事例。わずか2日で復旧が完了しました。

### 製品規格

#### ●形状



#### ●下部構造物に衝撃荷重を伝えない場合

(衝撃時滑動・転倒安全率 1.5、抵抗スパン 10m)

規格	H(mm)	防護柵の種別	B(mm)	L(mm)	参考質量(kg)
GB I-400 x 1500 x 2000	400	B, C種	1500	2000	1015
GB I-500 x 1500 x 2000	500		1500	2000	1095
GB I-600 x 1500 x 2000	600		1500	2000	1175

#### ●下部構造物に衝撃荷重が伝わる場合もしくは下部構造物が無い場合

(衝撃時滑動・転倒安全率 1.5、抵抗スパン 10m)

規格	H(mm)	防護柵の種別	B(mm)	L(mm)	参考質量(kg)
GB I-400 x 1000 x 2000	400	B, C種	1000	2000	795
GB I-500 x 1000 x 2000	500		1000	2000	875
GB I-600 x 1000 x 2000	600		1000	2000	955

#### ●下部構造物に衝撃荷重が伝わる場合もしくは下部構造物が無い場合

(衝撃時滑動・転倒安全率 1.5、抵抗スパン 18m)

規格	H(mm)	防護柵の種別	B(mm)	L(mm)	参考質量(kg)
GB I-400 x 800 x 2000	400	B, C種	800	2000	700
GB I-500 x 800 x 2000	500		800	2000	780
GB I-600 x 800 x 2000	600		800	2000	860

施工例



■プレキャストL型擁壁直上



■側溝設置



■補強土擁壁直上



■勾配変化部設置



■軽量盛土直上



■積ブロック擁壁直上